収蔵庫で確認された明治期のシダ植物標本

加藤ゆき恵*

釧路市立博物館の植物収蔵庫には1920年代から1950年代にかけて釧路地方で採集された、採集者不明の植物標本群が未整理のまま保管されていました。標本は採集時の新聞紙に挟まれたままのものがほとんどで、新聞紙の隅や「こより」状のラベルに採集地と採集年月日が書かれていますが（写真１）、標本情報のないものも含まれています。標本の採集日、採集場所に偏りがあることから、釧路在住の人ではなく、他所から旅行などで来釧した人がまとめて採集したものではないかと推察しています。これまでに確認できた中で最も古い年代の標本群については、実態解明のための調査を行いましたが（加藤 2017）、中身を確認していない未整理標本群はまだたくさんあります。

2020年の４月から５月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受けて博物館が臨時休館となり、企画展などの予定が変更になったため、空いた時間を使って未整理標本を一箱、開梱しました。

大きい箱に入っていた８束の標本のうち、大半は1920年前後と1950年代半ばに採集されたもので、これまでに確認した標本群と同じような特徴のものでしたが、７つ目の束でこれまでと異なる標本が出てきました。これらの標本は台紙に貼られ、標本情報ラベルもついた状態で、何より標本ラベルに書かれた採集年が「明治四十二年」…！明治期の植物標本はこれまでに大学等の植物標本庫で見たことがありましたが、当館所蔵のものでは初めてだったので、とても驚きました。

台紙に貼られた標本は49点あり、そのうち45点は「笠井文夫採集」と書かれたラベルが貼られ、１点を除いて「阿波国」（現在の徳島県）で明治40年前後に採られたものでした（写真２）。また、１点は明治20年に「森 吉太郎」によって東京農林学校で採集されたと考えられる標本でした（写真３）。３点は標本ラベルがありませんでしたが、標本の状態から、同じくらいの時期の標本と思われました。

コロナの折りでもあったため、「笠井文夫」と「森 吉太郎」についてオンラインで文献を収集しました。どちらも、牧野富太郎や北村四郎といった著名な植物学者の論文に名前が挙がっていましたが、詳しい情報は現在もまだ調査中です。特に「笠井文夫採集」標本には、これまでに確認した採集者不明標本群と似たような特徴を持つものもあったため、新たな発見があるかもしれません。今後、更に調査を進めて行きます。

＊釧路市立博物館

引用文献

加藤ゆき恵. 2017. 釧路市立博物館所蔵1920年代植物標本群の実態解明. 釧路市立博物館紀要, 37: 49-54.

写真１　1927年６月19日に鳥取泥炭地で採集されたフタマタイチゲ標本

写真２　「笠井文夫採集」標本　トキワトラノオ
明治36年（1903年）８月10日　阿波国麻植郡西麻植

写真３　森吉太郎採集標本
採集年月日は二〇．七．一八で「明治20年」か「1920年」かは分からないが、東京農林学校の沿革や森吉太郎氏の活躍時期から「明治20年」と判断した。